

株式会社伊吹電子（神奈川県川崎市）

～独自の発想と卓越した製造技術で音声拡聴器を開発～

1. 脱下請けで自社製品を開発

株式会社伊吹電子は、昭和46年に大手電機メーカー系列会社の技術者だった現社長の松田氏が創業したことからスタートする。当初は、大手メーカーが製造するアマチュア無線機などに使用する電子部品を製造していた。しかし、昭和60年頃になると、製造の拠点が中国にシフトし、苦しい時代を迎えることになる。その後、電話機などに使用する電子部品の製造を行った時期もあった。

平成9年頃、中小企業の脱下請けという流れの中、自社製品の開発に取り組み始めた。それにより生まれたのが音声拡聴器である。開発のきっかけは、松田氏が耳の不自由な母親にプレゼントした補聴器であった。プレゼントしたものの、母親はあまり補聴器を使ってくれなかった。「使わないのには何か理由がある」と松田氏は、補聴器の長所、短所を調査して、理想の商品像を集約して音声拡聴器を開発した。開発費用をあまりかけられないという会社事情もあり、第1号試作器の筐体は段ボールなどの寄せ集めの部品で作られたものであった。しかし、利用者の声を形にした試作器は、親戚や近隣の間で好評となり、さらに研究開発を進めていった。第3号試作器では、筐体に携帯電話のケースを流用するなど工夫を重ねて、自社製品である音声拡聴器「クリアーボイス」が完成し、平成11年より販売を開始した。

2. 開発技術と知的財産権

同社では、音声拡聴器など開発した商品について、技術は実用新案、形状は意匠、商品名は商標、と登録を行って自社の知的財産を保護している。意匠や商標の手続きは自ら行うなど知的財産権への意識は高い。しかし、そんな同社にも苦い経験がある。音声拡聴器の模倣品と思われる商品が販売されて、その販売元に警告をしようとした。そのとき、弁理士に相談したところ、同社が登録した実用新案の請求項の関係で警告することは難しいと判断され、警告できなかったのである。それにより、知的財産権は登録するだけでなく、その登録した内容に抜けがあってはならないと松田氏は感じたという。

3. 第二、第三の自社製品の開発へ

クリアーボイスの販売開始後、その技術を応用して、ヘッドフォンタイプの音声拡聴器「ボイスカムバック」、聴く方ではなく発生した声を大きく伝える「マイク&スピーカー」、ボイスカムバックを改造した電子聴診器、と新製品を次々と開発している。いずれの製品も、長年の電子部品製造の下請けで蓄積してきた技術をもとに、「困っている人がいれば助けたい」という気持ちで開発したものである。また、足の不自由な方が周りの人に音で存在を示してぶつかるのを防ぐ「すてきなメロディーステッキ」を開発し、福祉コミュニケーション機器という分野で高齢者の声を大切にしたい事業を展開している。

現在は、今後の団塊世代の高齢化に対応するため、骨伝導対応型の音声拡聴器「iースマートボイス」を開発している。

4. これからは特許取得も

多様な商品を開発している同社であるが、松田社長によれば、開発した技術は「技術的に決して高度ではない」と思い、これまで特許ではなく実用新案で保護を図ってきた。しかし、今後は、脱下請を目指し、独自の発想と卓越した製造技術でオリジナル商品を開発して、「特許取得も視野に入れていきたい。」と考えている。

●保有権利に基づく製品例



音声拡聴器



音声拡聴器（ペンダント型）



すてきなメロディーステッキ

●会社概要

名称及び代表者名	株式会社伊吹電子 代表取締役 松田 正雄
本社所在地	川崎市高津区末長236
創業	1971（昭和46）年
資本金	1,000万円
従業員数	22名
主要製品	プリント基板等電子部品、音声拡聴器等福祉コミュニケーション機器
電話	044-888-3796
URL	http://www.ibukiel.co.jp